

■特別座談会

心不全診療の最前線と今後の課題

——心不全診療のリスクと改善手段、そして ACP の可視化

慶應義塾大学医学部 循環器内科 准教授

香坂 俊

東京女子医科大学 循環器内科 講師

菊池規子

医療法人社団 ゆみの 理事長・統括院長

弓野 大

《司会》東京女子医科大学 循環器内科 臨床教授

大門雅夫

本座談会は、「心不全診療の最前線と今後の課題」というテーマで、行われました。

ご出席いただいた先生方は、慶應義塾大学医学部循環器内科 准教授の香坂 俊 先生、東京女子医科大学循環器内科 講師の菊池 規子 先生、そして医療法人社団 ゆみの 理事長・統括院長の弓野 大 先生、司会は東京女子医科大学循環器内科 臨床教授の大門 雅夫 先生でした。

司会の大門先生が最初に、「本誌は、多くの臨床実地家の先生、開業医の先生などに配布されているということで、少しでもその先生方の診療の一助になるような内容になればと思っております。先生方、忌憚のないご意見と共に、実際の診療の様子と今後の課題などを話し合っていただければと思います。まず自己紹介をお願いいたします」と話され、座談会は始まりました。

続いて、「心不全患者の疫学的推移と治療法の進歩」「心不全診療の薬物治療」「在宅医療の課題」と、座談会のテーマ「心不全診療の最前線と今後の課題」に沿いつつ、香坂先生、菊池先生、弓野先生、そして大門先生の4先生方で、活発な議論を行っていただきました。

最後に、司会の大門先生が、「今日感じましたのは、これまでの心不全の治療は、利尿剤などを用いて呼吸困難感を取るという治療から始まり、後から振り返らないと目には見えない予後を改善するというものでした。そのゴールそのものに違いはないのですが、同時にQOLを改善して、患者さんの幸せを考えて、どのように終末期に向かって携わっていくか。そういう治療のゴールに向かって医療を連携させていくという点で、本日のお話は非常に勉強になりました。大学病院から臨床実地家の先生方、開業医の先生方まで、そして多職種を巻き込んで、患者さんの今後の人生そのものを考えるような医療を考えて、しっかりとすばらしい人生を送っていただくということも良く理解でき、大変感銘を受けました。本日は、たくさん話題を用意したのですが、話しているうちにいろいろと話題が尽きず話が広がりました。十分議論できたかと思しますので、この辺で締めさせていただきます。お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました」と話され、座談会を締めくくられています。

「心不全診療の最前線と今後の課題」のお話は、実地医家の先生方にご理解いただくために、とても参考となる非常に有意義な内容の座談会となっております。